

市町村立小中学校オンライン教育のモデル事業について

総合教育センター

1 事業趣旨

市町村立小中学校において、オンライン教育を先導するモデル校を選定し、平時・有事を問わず児童生徒の学習支援を「ハード・ソフト・指導体制」三位一体で行うことを通じて、新型コロナウイルス感染症の再流行に備えた学びの継続性を確保するとともに、「GIGAスクール構想」の全県展開につなげる。

2 事業内容

(1) モデル校（4モデル）※応募総数：8市町から9件

- ・上板町 高志小学校：学校と家庭の学びの連続性に関する実証
- ・阿南市 桑野小学校：GIGAスクール時代の情報モラル教育に関する実証
- ・美馬市 穴吹中学校：Web会議システムを活用した授業改善等に関する実証
- ・三好市 東祖谷小・中学校：外部機関との連携による学びの充実に関する実証

(2) 実施期間

令和2年6月5日から令和3年3月31日までとする。

(3) 予算

4月補正危機管理調整費20,000千円、その後6月補正予定

(4) モデル校での環境整備（県からの機器無償貸与）

- ・タブレット端末配備数（1人1台）
 - ：高志小学校108台、桑野小学校107台
 - ：穴吹中学校76台、東祖谷小・中学校50台
- ・モバイルルータ：家庭通信環境を踏まえた必要台数
- ・Web会議システム：教員数（54人）ライセンス
- ・教育クラウドサービス：無料のサービス活用

（学びポケット、オフィス365などを予定）

(5) モデル校の取組内容

児童生徒や地域の実情に応じて課題を設定し、工夫を凝らしたオンライン教育についての実証研究を行う。

- ・学校での教育活動における効果的なICTを活用した実証
- ・有事における遠隔授業を想定した実証
- ・教員のテレワークに関する実証

3 今後の展開

GIGAスクール構想の加速化を見据えた知見と課題への対応策を整理し全県展開